

「市民の広場」で体験学習

平成20年10月19日(日)に大垣城ホールで開催された第13回「市民の健康広場」において、歯科衛生科学学生2年次生29名、1年次8名が歯科公衆衛生活動に参加しました。

「市民の健康広場」は医科・歯科・薬科をはじめ食や福祉など全身の健康に関わる行事です。

2年次生は、「臨床・臨地実習」の一環として大垣市民の幼児を対象にし、歯科衛生士会が実施するフッ化物塗布前のブラッシング指導および個別指導を行い、午後からは成人・高齢者も対象とし計299名に対し保健指導を実施し、指導を行うにあたり事前学習として集団への語りかけ方、顎模型の提示方法を行いました。グループの代表者は大型口腔模型を使用して小児の磨き方と保護者の仕上げ磨きの方法をデモンストレーションし、他の学生は対象者の間に入り配布された歯ブラシを使用して個別に指導をしました。1年次生は、「社会活動演習」として、石膏模型の色塗りとプラパン作成の参加者(主として小児・保護者)と触れ合いました。この行事では「小児歯科学」「保健指導法」「歯科健康教育」「発達口腔保健演習」「コミュニケーション演習」で学んだ知識・技術を実施する良い機会となりました。また、外部の一般市民の子供と保護者に保健指導を実施するのは初めてであり、この体験から様々な年齢に応じたコミュニケーション能力および様々な口腔内状況に対応した保健指導の必要性を実感し、今後の「歯科健康教育」などの授業の学習意欲が高まったのではないかと思います。さらに、地域の歯科保健活動に参加し、体験することで、公衆衛生活動の意義を理解できたように思います。

歯科衛生科准教授 村越由季子



G P 通信

発行

大垣女子短期大学

G P 専門部会

第3号は
歯科衛生科の
体験学習特集!



体験学習は重要

歯科衛生科学科長 石川隆義



～充実感に溢れる学生たち～

これまで授業で修得してきた口腔保健に関する知識、技術や態度を、「市民の健康広場」という実際の場において、体験的に学習できた事さらに大垣市民の公衆衛生に貢献でき、学生にとって非常に有意義なものとなった。

将来、地域市民の口腔の健康を維持・増進させていく歯科公衆衛生も担っていく歯科衛生士になるにあたり、今後益々このような体験を積んでいく事が重要と考えている。

学生たちは…。

◎初めて人前で保健指導をすることで、指導する難しさがわかったが、指導したことをわかってくれるとうれしかった。

◎子どもへの対応が難しかったが、保護者の協力を得られるよう工夫をし、子どもに興味を持たせることなど、幼児との接し方を学べた。

◎年齢のばらつきがあると指導が難しく、各年代の特徴を知っておくことや、保護者が上手に仕上げ磨きをしている子供は口腔内が健康で子供も上手に磨いていたことがわかり、勉強になった。今後の実習に役立てたい。

◎歯磨きのやり方の圧、動かし方が不安定な人が多く、指導すればできるわけではないとわかり、失敗もしたが、勉強になった。

◎このような場で医療や健康について考えることは意義がある。自分の健康状態もわかり、今後の健康管理に役立てたい。

◎先輩たちが指導を行っているのを見て、来年は自分たちが実施することや、気を付けなければいけないことなどがわかって良かった。

